

米国の GDP と中東情勢に要注目

- ◆ドル円は、日米貿易不均衡是正や中東情勢の地政学リスク警戒で軟調推移か
- ◆米国の第3四半期 GDP 速報に注目
- ◆ユーロドルは、イタリア予算案に対する欧州委員会の拒絶で軟調な推移か

予想レンジ

ドル円 109.00-114.00 円
ユーロドル 1.1100-1.1600 ドル

10月22日週の展望

ドル円は軟調な推移を予想する。米財務省の為替報告書では、中国は為替操作国と認定されなかった。しかし、中国人民銀行による直接的な介入は限定的だが、中国が為替介入を開示しないことは極めて遺憾であり今後も注意深く監視するとされた。中国、日本、韓国、インド、ドイツ、スイスの監視対象国指定は維持されたが、日本に対しては、大幅な対日貿易赤字が続いていることを引き続き懸念しているとした。日本の対米貿易黒字は1月から9月までの累計で約4.7兆円となり、昨年同時期の約5兆円と変わらない。11月6日の米議会中間選挙や来年1月から始まる予定の「日米物品貿易協定」に関する日米通商協議に向けて、日米貿易不均衡是正圧力、ドル安・円高圧力が強まる可能性は残されている。中間選挙では、共和党が議席を減らしてネジレ議会に陥ることが警戒されており、過去のパターンでは、米株安・ドル安要因となっている。

26日発表の米国の第3四半期国内総生産(GDP)速報は、前期比年率+3.3%と予想されており、第2四半期の同+4.2%からの減速が見込まれている。GDPが+4.0%以上ならば、11月7-8日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での追加利上げの可能性が高まり、+3.0%未満だった場合は、年内あと1回と予想されている追加利上げ観測が後退する可能性が高まることになる。

米国の2018会計年度の財政赤字が約7790億ドルまで拡大し、2019年度は1兆ドル程度に達すると予想されている。債務残高は21.5兆ドルまで増大している。米国の「双子の赤字」(=経常赤字+財政赤字)の対GDP比が6%を超えており、ドルが下落する可能性がある。

サウジアラビア政府に批判的なジャーナリストの失踪事件を受けて、サウジアラビアを巡る地政学リスクが高まりつつある。米議会がサウジアラビアに対して経済制裁に乗り出すことも警戒される。

ユーロは軟調な推移か。欧州委員会が、イタリア政府の2019年予算案を財政規律違反として拒絶する可能性が高まっている。そうなった場合は、イタリアのポピュリスト政権は予算案の修正を迫られることになり、欧州委員会との協議が長期化・難航しよう。イタリア国債の格下げも考えられる。最悪の場合は、ユーロ離脱もありうる。ユーロ円は、中東の地政学リスクや貿易摩擦への警戒感から軟調推移を予想する。

10月15日週の回顧

ドル円は、米財務省の為替報告書で中国が為替操作国と認定されることに対する警戒感や、世界同時株安を受けたリスク回避の円買いで111.63円まで下落した。しかし、為替報告書で中国が監視対象国のままだったこと、9月開催のFOMCの議事要旨で、中立金利水準(3.00%)を超えるまで利上げを継続する可能性が示唆されたことから112.73円まで反発した。ユーロドルは、欧州委員会がイタリア政府の2019年予算案が財政規律に違反していると通告したことで、1.1621ドルから1.1449ドルまで下落した。ユーロ円は、130.29円から128.32円まで下落した。(了)